

第2章 すべての日常生活・事業活動における地球環境の保全

第1節 環境教育・学習の推進

1 現状と課題

今日の環境問題は、一企業や産業に起因する従来の公害問題とは異なり、利便性を追求するライフスタイルの変化に伴う大量生産、大量消費、大量廃棄による廃棄物量の増大や地球温暖化問題など、私たち一人ひとりの生活に起因するところが大きいのが特徴です。

このような今日の環境問題を解決していくためには、私たち一人ひとりが環境問題を正しく認識し、環境にやさしい生活を実践していくことが大切であり、そのための環境教育・環境学習の重要性が増してきています。

府では環境問題に対する理解を深め、環境保全に関する意識の高揚を図るため、12月には「京都環境フェスティバル」を開催するほか、6月の環境月間を中心にポスターの掲示や各種パンフレット・小冊子の配布、巡回広報、パネル展の開催等を行ったり、広報誌やテレビ、ラジオ、インターネット等を活用するなど、あらゆる機会、媒体を使って普及啓発を行っています。府民だよりでは、環境月間等に環境問題をテーマとした特集を組んでいるほか、毎月子ども向けに「エコ&はじめの地球だいすキッズ」のコーナーを設けています。

2 環境教育・学習方針の決定

府環境基本計画では6つのリーディング・プロジェクトの一つに「環境まなびの輪創造プロジェクト」を掲げており、これまでに、府内の環境学習拠点の機器整備や環境学習事業・施設等を取りまとめた「環境学習ガイドブック」の作成、環境関係の施設・人材情報の提供など、環境教育・環境学習を積極的に推進しています。

13年度からは、地域・世代を超えた広域的な環境学習を行う場づくりを進め、地域等での環境学習の推進者を育成するため、滋賀県と連携して、両府県民が交流しながら環境について学べる「京滋地球環境カレッジ」を開講しており、16年度においても体験的な環境学習メニューを**NGO***と協力して提供しています。

3 府民等への環境問題についての普及・啓発の推進

①京都エコクラブ

府では、今日の環境問題を解決していくためには「身近なことからできることを一步一步着実に進めること」が必要との認識に立ち、京都エコクラブの会員募集を9年4月から行っています。

このクラブは、「いい地球にしたいと考えている人ならだれでも登録できる」もので、会費等は無料、会員にはメールマガジンによる情報提供やホームページでの活動披露・情報交換等の機会が設けられるものです。会員数は約14,000人に達しており、府では今後も多くの人々が会員に加わり、環境保全の輪がより広がっていくよう期待しています。

②フォーラム・イベント等

府では、環境月間（6月）・地球温暖化防止月間（12月）等の強調月間をとらえ、重点的にフォーラム・イベント等の啓発活動を展開しています。

【環境フェスティバル】

府では、2年度以降、毎年、京都環境フェスティバルを開催しています。

16年度は「広げよう環境行動！ みんなでつくる地球の未来」をテーマに開催。環境**NPO***や

企業など100団体以上の出展があり、約27,000人の多くの府民で賑わいました。今年度は、「省・**新エネルギー***」「**グリーン購入***」について、テーマゾーンでわかりやすく紹介したほか、バイオマス発電による電力を利用してイベントを運営しました。

13年度からスタートしたNPOなどの企画・運営による「エコ・ワークショップ」では、地域の水や巨椋池干拓地の農業と生き物についての発表や意見交換が行われました。また、昨年に引き続き、府内各地域で環境保全活動に取り組んでいる「こどもエコクラブ交流会」も同会場内で行いました。

食のコーナーにおいては、割り箸を回収し再利用に資するほか、「リターナブル容器」での提供によりゴミの減量に努めると同時に、容器の**デポジット***を行いました。そのほか、**低公害車***や自転車タクシーの試乗も人気を集めました。

表3-4 環境月間行事の概要（16年度）

行事名	実施機関	行事内容	備考
京の環境を考える作品コンクール	府、京と地球の共生府民会議	府内の小・中学生を対象に次のテーマで、絵画・標語の作品募集を実施。 テーマ「わたしが未来に伝えたい美しい地球」「わたしがふれてみたい自然、住んでみたいまち、守っていききたい環境」「わたしがめざすごみの減量化・リサイクル」	応募数 絵画の部：208点 標語の部：219点
京都府環境保全功労者表彰	府	環境保全に関し特に顕著な功績のあった個人や団体を表彰	8個人、8団体
京都府環境トップランナー表彰	府	環境配慮への取組を行い、社会的に多大な影響を与えた事業者や団体を表彰	3事業者、4団体
新エネルギーパネル展	府	新エネルギーに関する普及啓発と取組を紹介するパネル展	
京都の自然200選・レッドデータブックパネル展	府	地域のシンボリック存在である優れた自然環境を選定した「京都の自然200選」と京都府レッドデータブックのパネル展示	
ピオトープ人材養成講座	府、NPO法人ピオトープネットワーク京都	ピオトープの施行と管理等の技術と知識を学ぶ講座	41名
エコアップガーデン「初夏の親子観察会」	府、NPO法人ピオトープネットワーク京都	洛西浄化センター内にあるピオトープ「エコアップガーデン」の動植物の観察会	31名
大江山自然観察会	府、NPO自然観察指導員京都連絡会	自然観察指導員の案内により大江山周辺の自然環境を学ぶ観察会	36名
クリーン・リサイクル運動	府、京都府教育委員会、京都府市町村会、京都府町村会、京と地球の共生府民会議	京都府循環型社会形成計画に基づき、ごみの減量化・リサイクルを推進するため、京都府及び府内市町村が中心となり、府民、事業者とのパートナーシップにより、駅前、街頭、スーパー前等で街頭キャンペーン等を実施	約46,000名
ホテル探訪&草木昔遊び	(財)京都ゼミナールハウス	ホテル鑑賞や草木で昔遊び	33名
「畜産環境保全月間」啓発活動	府	畜産経営に起因する環境問題を未然に防ぐため、畜産環境保全の啓発を行う。また、家畜排せつ物のリサイクルを図るため「家畜排せつ物法」の周知を図る	
府営水道浄水場周辺環境美化運動	府	自然環境の保全を意識した事業活動の推進を目指した環境管理の一環として、浄水場内及び周辺の清掃活動を実施	29名
るり溪自然体験教室	府、(財)京都府少年教育振興会	るり溪の自然の中で、自然に親しみ、自然の不思議に気づくさまざまな体験や観察を通して、自然や環境に対する豊かな感性を培う	46名
自然体験学習指導者研修会	府、(財)京都府少年教育振興会	自然体験活動や野外教育を進めるための基礎的な知識・技能を学ぶ	25名

また、今年度は関西文化学術研究都市の都市びらき10周年の一環として、学研都市近郊で活躍するNPOや企業等の交流を深めることを目的に精華町内でも開催し、約3,500人の来場者がありました。「学研都市環境フォーラム～環境で拓く21世紀の都市づくり～」や「低公害車フェアinけいはんな」についても同時開催し、環境と共生したまち・学研都市の新しい魅力を発信することができました。

③講座・研修会等の実施

13年度には「京都府環境トップランナー表彰」を受けた企業や団体の先進的な活動や取組を広く府民に紹介するため「京と地球の府民環境講座」を開催し、14年度も引き続き「第3回世界水フォーラム」関連事業として「水」をテーマに同府民環境講座を開催しました。

また、消費生活室では、日常の暮らしの中での環境に配慮した行動を考えてもらうための講座、消費者団体等が企画から参画した講演会・シンポジウムや研修会などを内容とした「京都消費者フォーラム」などを開催しています。

表3-5 講座・研修会

催事名	日時	内容
環境にやさしいライフスタイル講座	17年2月	環境にやさしいライフスタイルの一層の促進を図るための講座を開催。
京都消費者フォーラム	16年12月	経済・社会環境の変化に伴い複雑化している消費者問題について、消費者・事業者及び行政が交流し、それぞれの課題を明らかにするとともに、省資源・省エネなどの環境に配慮した生活など消費者の生活創造をめざす場として、京都環境フェスティバルと同時開催。

④自然とのふれあい

府では、2年に設置した「緑と文化の基金」を活用し自然観察会を実施するなど、自然に直接ふれあうことで、自然のすばらしさや大切さを感じとってもらえるよう、様々な事業に取り組んでいます。

4 環境教育・学習機会の提供

①府が進める広域的な環境学習施策

(1) 京滋地球環境カレッジ

13年度から滋賀県と共同で、環境保全の分野で社会貢献活動を行いたいと思っている人等を対象に、地域や家庭において環境との関わりを考え、自ら行動する人づくりを進めながら、環境を学ぶことの大切さを広げていく体験的な環境学習講座を開催しています。

講座は府と滋賀県で交互に開催し、学習プログラムについては環境NGOと連携し、地球温暖化問題や自然体験など毎回テーマを変えて実施しており、「環境」への取組を通じた両府県民の地域や年齢を超えた交流、ネットワークづくりが期待されています。

表3-6 京滋地球環境カレッジ講座内容（16年度）

	日時	会場	内容
1	16.10. 2～3	滋賀県 近江八幡市	「環境学習の重要性とプログラムの企画」 ～近江八幡市を訪ねて～
2	16.10.17	京都府 京都市左京区	「お寺の森で環境学習！」 ～大文字山の麓にて～
3	16.10.30	滋賀県 長浜市	「レトロな街で環境学習！」 ～長浜市を訪ねて～
4	16.11.20～21	京都府 南山城村	「環境学習の企画づくりと発表」 ～南山城村にて～

(2) 地球デザインスクール

府北部地域の広域公園である丹後海と星の見える丘公園（仮称）については、自然との共生等をテーマに9年度から一部整備に着手しているところです。府では公園のハード施設整備に先行したソフト面の取組として「地球デザインスクール」を進めています。これは、公園予定地において、学生や社会人などが自然との共生を学び、地域の資源を活かして創作活動を行うもので、プログラムなどについても広くアイデア、提案を募集し、「手作り・参加型」の取組を進めています。

(3) 広域連携によるフィールド・ミュージアム等

複数の市町村が連携し、広い地域全体（フィールド）を自然・歴史・文化に溢れた博物館（ミュージアム）としてとらえ、多様な自然体験・環境学習の機会を整備・演出する取組が進められています。

府南部の乙訓・八幡地域（向日市、長岡京市、大山崎町、八幡市）では、桂川、宇治川、木津川の三川が合流する日本でも大変珍しいこの地域を「三川合流ドラマティックフィールド」と名付けて、多様な魅力ある地域資源を情報発信するなどの事業展開を、更に、山城地域の東部（城陽市、井手町、山城町、木津町）では、山際を貫く道を「山背古道」と名付けて再生し、埋もれた魅力の再発見と地域の人々による「まちづくり」の取組を地元のボランティア組織と連携しながら進めています。

②子供を中心とした環境学習等の取組

(1) 体験的環境学習推進事業

環境省の体験的環境学習推進事業を活用して、13年度には府の学習拠点である地球デザインスクール及び南山城少年自然の家で子供たちを対象としたモデルプログラム事業を実施するとともに、環境学習交流事業として「環境まなびの交流会」を開催しました。また、学習拠点における連携方策等についての検討も行いました。

(2) エコスクールin京都

府では、夏休みの期間、小・中学生を対象に環境保全の意識を養うため、身近な環境問題について体験・学習できる「エコスクールin京都」に10年度から取り組んでいます。

16年度は、府内3ヶ所で実施しました。

表3-7 「エコスクール in 京都」開催状況

教室名	日時	会場	内容	参加者数
エコスクールin京都 青少年地球環境科学教室	16. 8. 10	府保健環境研究所	「〴〵を測る」 ・夏の野菜・草花から色を取り出そう ・雨水を調べよう	72人
エコスクールinまいづる	16. 7. 23	舞鶴市中央公民館	・昆虫採集とお話 ・自転車発電体験と地球温暖化のお話	29人
エコスクールin木津	16. 7. 25	木津町リサイクル 研修ステーション	・親子で調べよう省エネ講座1	43人
	16. 8. 7		・ペットボトルによる竜巻実験 ・お天気教室	
	16. 8. 22		・親子で調べよう省エネ講座2	

(3) 全国星空継続観察

環境省では、63年度から星空観察という身近な方法により、大気環境保全に関する意識を高めることを目的に全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）を夏期と冬期に実施していますが、府では学校や市町村、インターネット等を通じて広く募集し、15年度は、23団体延べ290名の参加を得ています。

表3-8 「全国星空継続観察」参加団体

	12年度		13年度		14年度		15年度	
	参加団体	延べ観察参加人数	参加団体	延べ観察参加人数	参加団体	延べ観察参加人数	参加団体	延べ観察参加人数
夏 期	17	666	16	632	16	583	12	217
冬 期	7	87	9	116	7	54	11	73
合 計	24	753	25	748	23	637	23	290

(注) 京都市窓口分含む

(4) 身近な川の生物調査

環境省では、昭和59年度から住民参加による「水生生物による調査」を各地で実施するよう呼びかけていますが、府では環境教育の一環として府内の中・高校の協力も得ながら参加者を広く募集し、調査を進めています（「身近な川の生物調査」）。15年度は、小学生約700人を含む1,400人の参加を得ています。

表3-9 「身近な川の生物調査」参加団体

	参加団体数(人数)			
	12年度	13年度	14年度	15年度
小 学 校	14(554人)	12(455人)	18(708人)	19(721人)
中 学 校	4(123人)	2(87人)	2(40人)	4(65人)
高 校	3(96人)	8(301人)	6(202人)	8(204人)
一般参加	6(19人)	8(366人)	19(523人)	12(422人)
合 計	27(792人)	30(1,209人)	45(1,473人)	43(1,412人)

(5) エコ親子認定事業

府では15年度から夏休みに親子で行う家庭での省エネ等の取組を、ポイントを貯めるという楽しみを持って継続することにより、家族のふれあいを深めながら地球温暖化対策に対する意識の向上を図ることを目的として、小学生及びその家族を対象とした「エコ親子認定事業」を実施しています。16年度は、各家庭や小学校から、取組を行う「エコ親子認定チェックシート」約5,800部の配布希望があり、約620組を「エコ親子」として認定しました。



(6) その他

府内2ヶ所の少年自然の家（南山城、るり溪）では、小・中学生や保護者を対象とした自然体験「森と小川の教室」を社会教育の一環として進めているところです。

また、府では、毎年、府内の小・中学生を対象に、環境問題により一層理解を深めてもらうため、絵画及び標語について「京の環境を考える作品コンクール」を実施しています。

その他、環境省が呼びかけ、全国で子供の自主的な環境保全活動の輪を広げる「子どもエコクラブ」については、17年1月末現在、36クラブ、1,100名を超える子供が加入しており、子供の創意・意欲を活かした地域における環境保全の活動が展開されています。

表3-10 「京の環境を考える作品コンクール」(15年度)

(絵画の部)

(標語の部)

	氏名	学校名	学年	氏名	学校名	学年	作 品
京都府知事賞	小 薮 慶 子	福知山市立 遷喬小学校	6	中 川 恭 平	長岡京市立 長岡第四小学校	5	かんきょうは ぼくらがまも る たからもの
京都府教育委員会 教 育 長 賞	芦 田 知 佳	福知山市立 遷喬小学校	6	南 翔 梧	長岡京市立 長岡第四小学校	5	たのしいな みどりのなかの かくれんぼ
京都市教育委員会 教 育 長 賞	河 村 真 里	京都市立 宇多野小学校	5	高 城 大 輝	京都市立 山階南小学校	5	リサイクル みんながめざす きれいな京都

図3-4 京の環境を考える作品コンクール(絵画の部)受賞作品(15年度)



京都府知事賞
福知山市立遷喬小学校6年 小薮慶子



京都府教育委員会教育長賞
福知山市立遷喬小学校6年 芦田知佳



京都市教育委員会教育長賞
京都市立宇多野小学校5年 河村真里

表 3-11 「京の環境を考える作品コンクール」(16年度)

(絵画の部)				(標語の部)			
	氏名	学校名	学年	氏名	学校名	学年	作 品
京都府知事賞	大石 真諭	京都市立 九条中学校	2	鳥居 萌子	長岡京市立 長岡第四小学校	5	リサイクル くるくる回り へんしんだ。
京都府教育委員会 教育長賞	和久田 愛子	京田辺市立 桃園小学校	5	植野 瑠恵	長岡京市立 長岡第四小学校	5	買いものは さいふにふくろ 忘れずに
京都市教育委員会 教育長賞	片桐 祐規	京都市立 山ノ内小学校	3	黒田 正文	京都市立 山階南小学校	6	美しい 地球の自然 未来に つなぐ

図 3-5 京の環境を考える作品コンクール(絵画の部)受賞作品(16年度)



京都府知事賞
京都市立九条中学校 2年 大石真諭



京都府教育委員会教育長賞
京田辺市立桃園小学校 5年 和久田愛子



京都市教育委員会教育長賞
京都市立山ノ内小学校 3年 片桐祐規

5 学校等における環境教育・学習の推進

本府では、「学校教育指導の重点」に環境教育の項を設け、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階を踏まえた組織的・計画的な取組を推進しています。

6～8年度に指定した環境教育推進校「ふるさとアメニティ・スクール」では、地域に根ざした体験的な学習を通して組織的な環境教育の推進を図りました。この研究成果の普及を図り、9～12年度は環境教育ブロック「環境を守り育てる協力校」を指定し、特に小・中学校の系統性に留意しつつ、地域の人材や資源を活用した総合的な環境教育の推進を図りました。14年度は、第3回世界水フォーラムの開催を契機として、環境教育推進校「京のエコスクール」を小中高各2校指定しました。指定校においては、学校と家庭、地域社会とが連携を図りながら、地域の水環境について実践的な学習を進め、その成果として「京の水マップ」の作成や指定校の取組を世界水フォーラム関連の催し等で発表するとともに、自らが環境目標を定め、それに向かって取り組む等の環境保全や、よりよい環境を創造する「エコスクール活動」を推進することにより、主体的に行動する実践的態度と能力等の育成に努めました。15年度は、引き続き「京のエコスクール」指定校において「エコスクール活動」を推進し、その成果を研究発表大会やホームページ等で波及に努めました。16年度からは、新たに小・中・高等学校計7校を「京のエコスクール」として指定して、環境教育の一層の充実を図るとともに、その成果の波及に努めています。

更に、2年度から小学生向けの環境教育の副読本として「京都の自然発見」を、また13年度からはこれを大幅に改訂した「環境まなぶっく」を作成し、府内の小学5年生全員に配布しています。11年度には学齢児未満の幼児向けに紙芝居（うみ・もり・そらとのおやくそく）を作成し、府内の全ての幼稚園や保育所に配布しました。

高校教育においては、府立木津高校に「環境コース」、府立南八幡高校に普通科総合選択制「自然環境コース」を設置しているほか、15年度からは順次全府立高校において「エコスクール活動」を展開し、全校をあげて数値目標を設定し、環境負荷の軽減に取り組むとともに啓発のための植樹を行っています。更に、環境教育を授業に取り入れるなど、各学校で個性ある実践活動が進んでおり、15年度には、府立北稜高校では全国の普通科高校で初めて「K E S ・環境マネジメントシステム・スタンダード」（京のアジェンダ21フォーラム認定）を、府立八幡高校では近畿の高校で初めて **ISO14001** *をそれぞれ認証取得しました。

また、各府立高校独自の環境マネジメントシステム（EMS）の構築を目指し、京都精華大学との連携を実施しています。

こうした取組については、9年度及び11年度に作成した指導資料「京と地球の環境教育」や14年度に作成した「京の水マップ」、府教委広報等を通して、府内の学校や府民へ広く普及に努めています。

表3-12 学校等における環境教育・子供を対象とした環境学習の取組

事業名	事業の概要
環境教育ブロック「環境を守り育てる協力校」の指定	(概要) 学校の教育活動全体を通じて、組織的・計画的な環境教育の取組を推進し、環境に配慮した生活や行動ができる児童生徒の育成を図る。 (内容) 11、12年度 府内2ブロック8校を指定。 (園部町、伊根町各ブロック中学校1校とその校区の小学校)
環境教育推進事業「京のエコスクール活動」	14・15年度小中高等学校計6校、16・17年度小中高等学校計7校を指定し、環境保全やよりよい環境を創造するための実践的な活動、発達段階に応じた系統的な指導等について先導的な実践研究を行い、環境教育の一層の充実を図る。 14年度には、「京の水マップ」を作成し、全小中高等学校に配布した。
「京と地球の環境教育―事例編―」の作成	9・10年度環境ブロック「環境を守り育てる協力校」として指定した府内3ブロックの小・中学校計13校における実践成果を環境教育指導資料事例編として、冊子にまとめ、全小・中学校に配布した。

事業名	事業の概要
「環境まなぶつく」の作成	身の回りの自然や生活を通して環境保護の大切さを学習する教育副読本として府内の小学5年生全員に配布している。
森と小川の教室推進事業	少年自然の家において、小・中学生や保護者を対象にした自然体験や指導者等を対象にした研修会を行っている。 南山城少年自然の家「自然と伝統工芸の教室」等4事業 るり溪少年自然の家「冒険隊」等4事業
省庁連携子ども体験型環境学習推進事業	文部科学省の省庁連携子ども体験型環境学習推進事業を活用し、綾部市で実施。 水質調査と水生植物の観察、河川のごみ拾い等
エコスクール活動	環境問題に対する意識の高揚を図るとともに、循環型社会を構築する態度を育成するため、数値目標を設定した節電、節水、ゴミの減量等及び「エコスクール活動」啓発のための植樹を実施する。 宇治市以南の府立高校12校
環境マネジメント導入プロジェクト	京都精華大学人文学部環境社会学科と京都府立高等学校が連携することにより、環境への負荷を低減するよう配慮・改善するための「PDCAサイクル」導入による各府立高校独自の「環境マネジメントシステム（EMS）」を構築する。 府立高校6校（桂、八幡、田辺、木津、亀岡、園部）

第2節 自主的な環境保全・創造活動の促進、推進

1 現状と課題

企業・事業所における「環境保全への配慮」は、地球環境問題の高まりや循環型社会構築に向けた取組が定着し、国際的な商取引上も環境配慮への姿勢が問われてきていること、消費者・需要者にも「環境」を商品選択の重要な要素としてとらえていこうという動きが拡大しつつあること、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法等への対応などから、企業の社会的責任への認識の高まりとともに広がっています。「環境」を競争力強化の重要な柱ととらえ、府内においても **ISO14001*** の認証取得や **環境報告書***、**環境会計*** の公表、**グリーン購入*** の取組など環境経営を指向する企業・事業所等が増えてきており、環境の産業化とともに産業の環境化への適切な対応が重要となってきています。

2 環境に配慮した事業活動の促進

①環境管理の推進

「環境管理」とは、企業等が法令の規制を遵守するとともに、自主的・積極的に環境保全のための行動を行うことを指しており、府環境を守り育てる条例においても、環境管理の推進を位置づけ、一定規模以上の事業者には率先行動を期待する規定を設けています。また、事業所内での環境管理の推進役としての「環境管理総括者」の選任を求めており、16年3月末現在で80名（京都市含む）が選任されています。

また、府中小企業総合センターでは、先進的な事業所の見学会や環境講演会等の事業を実施しているほか、ホームページに「環境相談」のコーナーを設けるなど必要な情報の提供に努めています。

②公害防止組織

様々な事業活動に伴う **公害*** の発生を未然に防止するためには、発生源に対する規制や設備改善とともに、企業内における諸施設の維持管理、自主監視等が不可欠です。

この趣旨から、46年に「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」が制定され、企業内に公害防止管理者等を選任し、公害防止体制の整備を図らなければならないこととなりました。また、府環境を守り育てる条例においても、特定の事業者には府独自の公害防止管理者の選任を義務付け、講習会を実施するなど更に徹底を図っています。

③京都府環境トップランナー表彰、「エコ京都21」制度

13年度に、地球温暖化防止や循環型社会の形成など、環境の保全や創造に向けた先駆的・先進的な取組を行い、府民の環境配慮行動に多大な影響を与えた事業者及び団体を表彰することによって、「環境先進地・京都」を目指す意識の高揚を図ることを目的に「京都府環境トップランナー表彰」制度を創設しました。また、環境に配慮した事業所等の拡大を図るため、二酸化炭素の削減や廃棄物の排出削減に積極的に取り組んでいる事業所や、創意あふれる環境配慮活動を推進している学校、地域、商店街等を認定・登録する「エコ京都21（京都・環境を守り育てる事業所等）」制度を新たに創設し、16年12月現在、130事業所等を認定・登録しています。

特に、今年度からは、より高いレベルで取組を進める事業所等を「☆☆☆マイスター」「☆☆アドバンス」として認定することとし、マイスターに2事業所を、アドバンスに6事業所を認定しました。

更に、事業所における自主的な環境保全活動を支援するため、府中小企業総合センターでは環境保全技術に係る講演会等を通じた先進的な取組事例等の紹介やインターネット等を活用し、事業所への相談に応じ、必要なサポートが行えるよう努めています。

表3-13 府環境トップランナー表彰団体・事業者（16年度）

事業者（団体）名	市町村名	事 績
鴨川を美しくする会	京 都 市	長年にわたり河川美化運動の普及拡大に尽力するとともに、河川における幅広い環境保全活動に取り組む
特定非営利活動法人 古材バンクの会	京 都 市	木造建築物の再生や古材の活用などの取組を通じ、資源循環のしくみの構築や木の文化の再発見に尽力
サント機工株式会社	綾 部 市	環境経営に積極的に取り組むとともに、その経験や知見を活かして地域の企業の環境保全活動に先導的な役割を果たす
株式会社島津製作所	京 都 市	環境経営の推進や事業活動に伴う環境負荷の低減に積極的に取り組むとともに、京都企業や府民の環境保全活動に貢献
特定非営利活動法人 丹後の自然を守る会	岩 滝 町	廃食用油の再生利用を通じて地域の環境保全活動に積極的に取り組むとともに、丹後地域の環境共生のまちづくりに先導的な役割を果たす
特定非営利活動法人 ビオトープネットワーク京都	京 都 市	学校や地域でのビオトープづくりを支援するとともに、ビオトープを活用した環境学習の普及に積極的に取り組む
日立マクセル株式会社 京都事業所	大 山 崎 町	環境経営の推進や事業活動に伴う環境負荷の低減に積極的に取り組むとともに、地域の環境保全活動に貢献

④国際環境規格 I S O 14001 の認証取得への支援

事業者が、環境に関する目的・目標などを自ら設定し、その達成に向けて取り組む**環境マネジメントシステム***については、国際環境規格 I S O 14001 が確立されており、認証登録をしている事業所数が全国的に増加しています。

府内においても I S O 14001 の認証を取得する事業所が急速に増えているほか、大学や自治体での取得や取得に向けた動きが増えてきており、16年12月までで510件の取得件数となっています。府では、中小企業を対象に I S O 14001 認証取得の支援事業を重点的に展開しており、府中小企業総合センターでは認証取得に係る講習会等を実施しています。

また、京のアジェンダ21フォーラムでは、13年度から、経費や体制面から I S O 14001 の認証取得が困難な中小企業向けに策定した「K E S ・環境マネジメントシステム・スタンダード」の審査・認証を始め、府域や業種・業態を超えた広がりを見せています。17年1月末までに353件の企業等を認証したほか、14年度から K E S 学校版「環境にやさしい学校」の認証を開始し、8校を認証しています。

3 民間団体等の自発的な活動の促進

①事業所等の取組

国際環境規格 I S O 14001 の認証の積極的な取得に加え、企業が自らの環境方針を明確にし、事業活動に伴って発生する環境に対する影響の程度やその影響を削減するための自主的な取組・成果をとりまとめて「環境報告書」という形で公表するケースや、事業活動における環境保全に関するコスト（投資額及び費用額）とその効果を可能な限り定量的（金額又は物量ベース）に把握し「環境会計」として公表するケースが増えてきており、環境省の「環境にやさしい企業行動調査」によると、15年度は743の企業が環境報告書を作成し公表しています。

なお、環境省では、「環境報告書ガイドライン」、「環境会計ガイドライン」、「環境保全コスト分類の手引き」、「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン」等を作成、公表し企業の自主的な環境保全取組を支援しています。

また、製造業にとどまらず、流通・サービス業等を含む幅広い業種で「環境」をキーワードにした取組が活発化してきています。

綾部市のAカード会では、買い物袋持参者、レジ袋・包装紙辞退者に通常の買い物ポイントに加えてエコポイントをプレゼントされています。野田川町の加悦谷自転車商協議会では、駅前等の放置自転車を修理・整備し、レンタサイクルとしてリサイクル活用され、また、長岡京市の長岡京市滝ノ町自治会では、小畑川懇談会を設立しビオトープを中心とした環境活動の実施、広報紙を通しての環境啓発などを展開されており、環境を意識した取組が各地で行われています。

そのほか京都百貨店協会（京都市内6店が加盟）では、2010年度のごみ排出量を1997年度と比べ約20%削減する自主目標を設定し、ごみ減量化を進めています。

府では、環境保全をはかるために必要な資金への融資のほか、伏見区の手稲商店街のソーラー発電アーケード整備（21世紀型商業基盤施設整備事業）や、宇治市の宇治橋通商店街と開商店街の「人にやさしいエコストリート宇治ふれあい商店街事業」（商店街等活性化先進事業）への補助を行ってきたところです。

②経済団体等の取組

個別の企業・事業所における取組に加え、経済団体でも積極的な展開が見られます。

（社）京都工業会では、環境関連事業として定期的に「京都環境管理研究会」や「I S O 14001 環境マネジメントシステム・構築セミナー」等を開催、省資源・省エネルギー見学会やリサイクル推進活動の研究等環境保全のための関連事業を推進しています。

京都商工会議所では、「都市美化・環境対策特別委員会」を設置し、I S O 14001 及び K E S 環境マネジメントシステム・スタンダードに関する啓発普及・認証取得支援をはじめ、環境問題に関する中小企業向け普及・啓発事業や環境ビジネスの育成支援、小学生に対する環境学習事業の展開など、環境都市・京都づくりを目指して様々な環境関連事業を推進しています。

京都中小企業家同友会に加盟する府内の中小企業を中心に、11年4月から「環境問題勉強会」をスタートしています。この勉強会では環境問題に関する様々なグループに分かれ、省エネ、自然エネルギー利用、リサイクル、廃棄物の再生、二酸化炭素の排出削減などの研究や実践が行われています。

また、11年6月、関西圏域における行政・経済界の広域的な連携を進めるため、「関西広域連携協議会」（代表理事：新宮康男）が設立され、広域連携課題の一つとして「環境問題への対応」を掲げました。軽装と適正冷房を率先実行する「関西夏のエコスタイル・キャンペーン」をはじめ、グリーン購入運動の展開、地球温暖化対策の推進、廃棄物の減量化・リサイクルなど、「環境共生圏・関西」の実現に向けた様々な取組が行われており、府も積極的に参画しています。

③府民、環境NPO等の自発的な活動促進の支援

府民一人ひとりの日常生活に起因する都市・生活型公害の顕在化や、より快適な環境の創造を求めるニーズ等の高まりに伴って、地域における足元からの環境保全活動への取組を推進することが求められており、府では「緑と文化の基金」を活用した、地域の自然と文化に学ぶみどりの体験活動支援事業など、民間活動団体等の草の根レベルの自然体験活動に対する支援を行っています。

また、地域や家庭で環境保全活動に自主的に取り組む府民等の集まりである京都エコクラブを通して、情報提供や交流事業などにより、府民一人ひとりの自主的な環境保全活動に対する支援等を行うとともに、長期にわたり環境保全に顕著な功績があった方々を環境保全功労者として表彰しています。

表 3-14 府環境保全功労者表彰団体・氏名（15年度）

区分	氏名・団体名	住所・所在地	表彰理由
個人	今川 富博	峰 山 町	自然環境保全監視員として、京都府歴史的な自然環境保全地域の監視や指導に尽力し、自然環境保全に貢献している。
	北尾 英一	京都市西京区	河川や地域の美化清掃活動や啓発活動などを積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	齋藤 英雄	京都市西京区	地域の美化清掃や不法投棄パトロールを積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	椎葉 哲朗	京都市東山区	河川の美化清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	高井 豊	園 部 町	地域の美化清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	藤野 正夫	京都市右京区	河川や地域の美化清掃活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	水谷 久仁子	京都市伏見区	河川の美化清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
団体	アベサンショウウオを守る会	大 宮 町	アベサンショウウオの生態観察を通し、その生息環境の維持へ結びつける活動を積極的に行い、自然環境保全に貢献している。
	岩倉自治連合会	京都市左京区	地域の一斉清掃を中心とした清掃活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	大塚地域女性会	京都市山科区	地域の一斉清掃を中心とした清掃活動や使用済食用油の回収などを積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	大原野自治連合会	京都市西京区	地域の一斉清掃を中心とした清掃活動や使用済食用油の回収などを積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	大宮町消費生活グループ	大 宮 町	家庭ゴミの堆肥化や、使用済食用油からの石けん作りを積極的に推進し、ゴミ減量・再資源化に貢献している。
	カニ殻活用研究会	峰 山 町	地域の旅館から排出されるカニ殻を粉砕し肥料として活用、生産した農産物を旅館で提供するシステムを研究・実践し、地域のゴミ減量・再資源化に貢献している。
	北白川愛郷会	京都市左京区	ハイキングコースの清掃活動や点検整備を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	京都市立栗田小学校	京都市東山区	河川の清掃活動、水質検査、全校児童による環境省のエコクラブ活動を積極的に推進し、地域における啓発や環境美化に貢献している。
	京都府立海洋高等学校	宮 津 市	生態系に悪影響を及ぼすブラックバスやブルーギル等外来魚を原料とした蒲鉾作りに成功し、その商品化を積極的に推進するとともに、河川や海洋の水質検査を継続実施し、水環境の保全やゴミ減量・再資源化に貢献している。
	雲ヶ畑自治振興会	京 都 市 北 区	地域の一斉清掃を中心とした清掃活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
土佐川を美しくする会	舞 鶴 市	河川の美化清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。	
向日市立向陽小学校	向 日 市	河川の水質検査や雨水の有効利用、簡易ビオトープや竹炭作りなどを積極的に推進し、水環境、環境学習等環境保全に貢献している。	

表3-15 府環境保全功労者表彰団体・氏名（16年度）

区分	氏名・団体名	住所・所在地	表彰理由
個人	内田 又夫	久 御 山 町	巨椋池の干拓地から蓮の種子を採取し、その育成・保護に長年取り組むとともに、京都花蓮研究会を発足させ、品種の保存・普及に努めるなど、自然環境保全に貢献している。
	大町 貞樹	京 丹 後 市	自然公園指導員として八丁浜の巡視等を行い、利用者に対する適切な助言や指導を行うなど、自然環境保全に貢献している。
	亀岡 昌子	亀 岡 市	鴨川を美しくする会において、河川の美化清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	城戸 平左衛門	京都市西京区	大原野地域の清掃活動や不法投棄の回収、地域の環境美化推進協議会の運営に積極的に取り組むなど、環境美化に貢献している。
	木村 正之助	京都市右京区	御室天神川周辺地域の清掃活動や地域の美化推進協議会の運営に積極的に取り組むなど、環境美化に貢献している。
	小畑 實	美 山 町	地域の清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、特に美山町環境保全対策協議会長としてその運営に中心となって取り組んでおり、環境美化に貢献している。
	佐久間 明敏	京都市左京区	白川源流と疎水を美しくする会において、地域の河川や遊歩道の清掃などの美化活動や会の運営に積極的に取り組むなど、環境美化に貢献している。
	山本 義博	京都市西京区	桂川離宮前緑地公園愛護会において、地域の環境美化活動に中心的立場で取り組んでおり、環境美化に貢献している。
団体	居母山クラブ	夜 久 野 町	町内の「居母山」の登山・登山道整備活動を通じ、自然観察指導や動植物の保護・啓発活動に取り組んでおり、自然環境保全に貢献している。
	桂東地域女性会	京都市西京区	使用済み天ぷら油、古紙等の回収をはじめ、ゴミ減量見学会の実施やフリーマーケットへの参加など、ゴミ減量・再資源化に貢献している。
	京都府立北稜高等学校	京都市左京区	京都府「エコスクール活動」指定校として生徒会を中心に環境教育・環境保全活動に取り組み、普通科高校として全国初のKES「環境マネジメントシステム・スタンダード」を取得するなど、地球温暖化防止の啓発等に尽力している。
	嵯峨野保勝会	京都市右京区	嵯峨野地区周辺の美化清掃活動や植栽地の整備を行い、環境美化に貢献している。
	下鴨学区市政協力委員連絡協議会	京都市左京区	下鴨神社糺ノ森周辺地域において、毎年600人以上が参加する美化清掃活動に取り組み、環境美化に貢献している。
	崇仁まちづくり推進委員会	京都市下京区	自然と共生した高瀬川の整備や地域住民・小学生とともに崇仁小学校内のビオトープづくりに取り組むなど、自然環境保全に貢献している。
	ふるさと“つつじヶ丘ビオトープ”委員会	亀 岡 市	小学校のビオトープづくりに児童・保護者・地域住民とともに独創的、大規模な取組を行い、自然環境保全やその思想の普及に貢献している。
夜久野町立夜久野中学校	夜 久 野 町	生徒会からの提起により空き缶を回収し、その収益金で町内の老人ホームへ車椅子等を寄贈する活動に継続して取り組み、ゴミ減量・再資源化に貢献している。	

4 府の環境保全・創造に関する活動の推進

府では、11年11月に府本庁舎を対象にISO14001の認証を取得し、府環境基本計画の基本理念・長期的目標に基づく環境方針・環境目的を設定し、毎年、この環境目的を実現するための環境目標を設定して進行管理・評価・見直しを行っています。16年度は、125の目標を掲げて取り組んでいます。

また、府では、自らが地球にやさしい取組を率先して実行するため、9年度から「地球にやさしい府庁づくり計画」を策定し取組を進めてきましたが、10年に制定された「地球温暖化対策の推進に関する法律」で、地方公共団体に事務・事業に係る温室効果ガス排出抑制のための計画（実行計画）の策定が義務付けられたことから、「地球にやさしい府庁づくり計画」を改定し、法の要件を満たす新たな計画として13年7月に「地球にやさしい21世紀府庁プラン」を策定し、取組を進めています。

なお、15年度における府の事務・事業に伴う温室効果ガス総排出量は84,051 t-CO₂であり、基準年度である11年度対比では2,986 t-CO₂（-3.43%）の減少となっています。

今後とも府施設における更なる省エネルギーの徹底を呼びかけるとともに、地球温暖化対策プラン

(改訂版)に基づき、府施設における自然エネルギー、省エネルギー設備の導入等を更に進めていくこととします。

表3-16 15年度京都府環境マネジメントシステム・環境目的・目標の達成状況(125目標)

環境目的 (環境基本計画の長期的目標)	環境目標数	主な環境目標と取組例	環境基本計画達成に向けた成果等
環境の世紀を拓く環境先進地・京都の創造	29	<ul style="list-style-type: none"> ○府内の様々な活動主体と共に地球温暖化防止活動推進センターを設立し、その活動を支援 ○地域における地球温暖化防止活動の取組を推進するため、地球温暖化防止活動推進員を府内各地に設置 ○二酸化炭素吸収源の拡大による温暖化防止に資するため、中国陝西省における植樹協力事業を実施 ○環境トップランナーを支援する表彰、認証事業を実施 〔「環境トップランナー」3団体等を表彰 「エコ京都21」30事業所等を認定・登録〕 	様々な活動主体の連携による地球温暖化防止活動の推進、府内事業者等の先駆け取組の顕彰・支援等による地球環境の保全の推進、自主的な取組の拡大促進
すべての日常生活・事業活動における地球環境の保全	27	<ul style="list-style-type: none"> ○府庁舎の温室効果ガス削減、廃棄物量等の削減等 〔温室効果ガス：前年度比63t-CO₂の削減 廃棄物量：前年度比19,150%の削減〕 ○京と地球の環境ホームページによる情報発信を拡充し、府民ニーズに沿った情報を随時提供(提供回数 48回) ○ISO14001認証取得を支援するため講演会の実施及び専門家を派遣(派遣日数 延べ19日 講演会開催数 3回) 	公共工事やオフィス活動を通じ、府自ら環境への配慮行動を率先実行するとともに、環境施策や環境問題に関する情報を積極的に提供・啓発し、府民・事業者の環境に配慮した主体的行動への参画の促進
自然と人間との共生の確保	14	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然とふれあうための自然観察会の開催(開催数 6回) ○身近に生き物呼び戻すビオトープの普及を図るための研究を実施(5講座の実施、手引書を作成) ○歴史的な自然環境保全地域等で森林整備事業を実施(12地域の中から7地域で事業実施) ○「環境にやさしい農業」に係る技術指針を策定し研修会等を開催 	自然とのふれあいや自然環境への負荷低減を通じた取組により、府民の環境保全意識の高揚の醸成
歴史的、文化的環境の保全	2	<ul style="list-style-type: none"> ○民俗文化資料の保全や古典芸能振興を行う団体を支援 〔民俗文化資料保存団体 69 古典芸能支援団体 26〕 	伝統文化の保全・継承を図り、地域文化の創造の促進
快適な環境の創造	11	<ul style="list-style-type: none"> ○集落水源山地の森林整備を行い集落の水環境を向上(治山施設数 3基 整備面積20ha) ○豊かな漁場を維持する上で、森林から流れ出る河川の水が重要な役割を果たしていることへの理解を広めるため、漁民の森づくりを漁業者やボランティアにより推進(漁民の森づくりのための植林活動 0.90ha) 	美しく豊かな自然とのふれあいの場の整備・提供、水環境の向上や緑化推進等を進めることにより、快適な都市環境の形成の推進
環境負荷の少ない循環型社会の構築	42	<ul style="list-style-type: none"> ○府民一人ひとりの不法投棄に対する意識高揚を図るため、不法投棄撲滅京都府民会議を開催 ○不法投棄の未然防止等のための監視体制の強化 〔不法投棄等監視員の配置 12人 監視カメラの配置 12台〕 ○循環型社会の構築に向け地域に根ざした取組を推進するため、マニュアル型事例集を作成 ○ゼロエミッション事業所の形成を促進するため、ゼロエミッション診断表を作成 ○下水道汚泥のリサイクル率の維持・向上を図り、下水道汚泥の再利用を促進(再利用率 60.3%) ○京都府庁グリーン調達方針を策定して、府自らが率先して環境物品等の購入に努めるとともに、その取組結果を公表 	廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルを促進し、ごみ処理量の削減や、不法投棄防止等による環境負荷低減の取組の推進

表 3-17 16年度京都府環境マネジメントシステム・環境目的・目標の概要（125目標）

環境目的 （環境基本計画 の長期的目標）	環境目標数	主な環境目標と取組例
環境の世紀を拓く環境先進地・京都の創造	35	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府民、環境団体、事業者、行政等のパートナーシップを強化し、地域における温暖化対策を一層推進するため、施策推進体制を整備し、その活動を支援 ○ 二酸化炭素吸収源の拡大による温暖化防止に資するため、中国陝西省における植樹協力事業を実施 ○ 17年度以降の新たな施策展開を図るため、新たな地球温暖化対策プラン（改訂版）を策定 ○ 「京都エコエネルギープロジェクト」（丹後地域における新エネルギーの需給制御技術の実証実験）の実施を通じて環境共生の地域づくりを推進 ○ 人と自然が共生する環境共生型の地域づくりを進めるため、『環』の公共事業行動計画を推進 ○ 先進的・先駆的な環境保全に取り組む企業や団体、府民等のトップランナーを表彰 ○ 「エコ京都21（京都環境を守り育てる事業所等）制度を通じた環境に配慮した事業所の拡大・内容の充実 ○ 環境保全に関する中小ベンチャー企業を中心とした産学公による研究会を支援 ○ 丹後地域で旅館・民宿等から排出され焼却処分されているカニ殻の活用を検討する協議会を支援
すべての日常生活・事業活動における地球環境の保全	22	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境配慮指針に基づき、公共工事における環境配慮度をチェック ○ 京滋地球環境カレッジを開講し、地域等で活動する環境学習の推進役を育成 ○ パートナーシップに基づく環境フェスティバルの開催 ○ 幅広い府民の環境保全の気運醸成に向け、京都エコクラブの勧誘活動を推進 ○ 環境啓発冊子を作成し、府内の全小学5年生に配布 ○ エコスクールin京都事業として、青少年地球環境科学教室を開催 ○ ISO14001認証取得を支援するため講演会の実施及び専門家を派遣 ○ 温室効果ガス削減の取組を進めるとともに、エコオフィス活動を推進 ○ 「電子府庁」を推進し、府民サービスの向上や行政運営の効率化と併せ、環境負荷を軽減
自然と人間との共生の確保	15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な自然とふれあうため自然観察会を開催 ○ 絶滅のおそれのある野生生物を保全するための制度の検討 ○ 京都府レッドデータブックに掲載されている絶滅のおそれのある野生生物の情報収集と保全に関する啓発 ○ 自然環境保全監視員を委嘱し、保全地域を適正に管理
歴史的、文化的環境の保全	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民俗文化資料の保全や祇園祭山鉦懸装品の新調を行う団体を支援 ○ 古典芸能振興を行う団体を支援
快適な環境の創造	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集落水源山地の森林整備を行い、集落の水環境を向上 ○ 豊かな漁場を維持する上で、森林から流れ出る河川の水が重要な役割を果たしていることへの理解を広めるため、漁民の森づくりを漁業者やボランティアにより推進 ○ 環境に配慮した河川等の水辺空間の整備事業を積極的に推進 ○ 農山村地域や都市近郊林の原風景であり、動植物の生息、生育地として重要なため池の保全整備を推進
環境負荷の少ない循環型社会の構築	41	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府民一人ひとりの不法投棄に対する意識高揚を図るため、不法投棄等撲滅京都府民会議を開催 ○ 不法投棄の未然防止等のための監視体制の強化（不法投棄等監視員の配置、夜間監視カメラの配置） ○ 発生源に対し、ダイオキシン類の基準適合状況を把握し指導するため、排水・排出ガス検査等を実施 ○ 事業者による化学物質の適正管理を推進するため、P R T R法に基づく適正な届出を促進し、府域の集計・公表を実施 ○ 道路混雑を緩和し、環境負荷が小さく快適な交通社会を実現するため、従来からのハード整備に加え、ソフト施策を組み合わせた交通需要管理を推進 ○ グリーン購入を府内に広く普及し定着させるためネットワークを設立し、事業の委託などを実施 ○ 事業者のゼロエミッションに向けた取組を支援するため、再生利用等の技術情報の提供及びゼロエミッション講習会、ゼロエミッションの専門アドバイザー診断等を実施 ○ 京都府庁グリーン調達方針を策定して、府自らが率先して環境物品等の購入に努めるとともに、その取組結果を公表

【地球にやさしい21世紀府庁プラン】

- 計画の期間 平成13年度～17年度
 基準年度 平成11年度
 目標年度 平成17年度

○目標

府の事務・事業から排出される**温室効果ガス***を17年度で5.5%削減

○計画の対象となる施設

府立学校、警察署、府立病院を含む全府庁

○計画の対象となる温室効果ガス

- ①二酸化炭素、②メタン、③一酸化二窒素、④ハイドロフルオロカーボン（代替フロン）、
 ⑤パーフルオロカーボン、⑥六フッ化硫黄

○温室効果ガス排出量の推移

(単位：t-CO₂)

温室効果ガスの種類	15年度結果	基準年度対比		14年度対比	
		数値	%	数値	%
二酸化炭素	81,796	-2,922	-3.45%	-1,352	-1.63%
メタン	580	-33	-5.31%	-25	-4.13%
一酸化二窒素	1,562	-64	-3.92%	25	1.64%
ハイドロフルオロカーボン	112	32	40.48%	23	25.13%
総排出量	84,051	-2,986	-3.43%	-1,329	-1.56%

【本庁のエコオフィス活動】

本庁でのエコオフィス活動については、「地球にやさしい21世紀府庁プラン」の本庁舎における取組として、毎年、ISO14001の環境マネジメントシステムの中で取組を進め、その取組結果を取りまとめて公表しています。

15年度については、「温室効果ガスの更なる削減」「廃棄物量の更なる削減」「両面コピー率の更なる向上」「コピー用紙購入枚数の削減」及び「各課での独自目標の設定」を環境目標として設定、本庁の全所属で取組を行いました。

11年度からの5年間の取組の継続により、職員の意識は向上し、一定の取組成果が得られていますが、16年度についても15年度と同項目を環境目標に掲げ、各所属において数値の把握できる取組については全庁目標数値とともに、各所属の前年度実績を基に目標達成に向けた取組を行う等、より高いレベルでの取組を継続して目指しています。

【グリーン購入活動】

需要面から循環型社会への転換を促進するため、13年11月に「京都府庁グリーン調達方針」を施行し、府庁の全ての機関において府庁自らが事業者・消費者として環境にやさしい物品等の一層の購入に努めています。

なお、15年度の取組結果については、府ホームページ「おこしやす京都」でも公表しています。

表3-18 京都府庁グリーン調達実績 (15年4月～16年3月)

分野	品目	総調達数量に占める環境配慮物品等の調達割合(%)
納入印刷物 (1品目)	納入印刷物	89.7
紙類 (9品目)	コピー用紙	99.0
	情報用紙・印刷用紙・衛生用紙など	98.4
文具類 (79品目)	文具	96.8
機器類 (10品目)	いす・机・棚・掲示板など	97.6
OA機 (9品目)	コピー機・電子計算機など	99.8

分野	品目	総調達数量に占める環境配慮物品等の調達割合(%)
家電製品 (5品目)	冷蔵庫・テレビなど	97.9
エアコンディショナー等 (2品目)	エアコンディショナーなど	100.0
照明 (3品目)	蛍光灯照明器具	100.0
	蛍光管・電球形蛍光管	97.5
制服・作業服 (2品目)	制服・作業服	95.7
インテリア・寝袋 (7品目)	カーテン・カーペット・毛布	97.8
作業用手袋 (1品目)	作業手袋	98.9
その他繊維製品 (3品目)	集会用テント、ブルーシートなど	87.6
自動車 (3品目)	自動車など	92.3

- 1 印刷用紙及び納入印刷物については、国の判断基準(70%)を上回る古紙配合率100%の用紙を使用することとした。
- 2 上記の品目のほか、設備(5品目)、役務(3品目)については調達実績はなく、公共工事(43品目)については努力目標であり集計の対象としていない。

第3節 環境情報の整備・提供

府民、NPO*、事業者等と協働して環境保全を行っていくためには、環境に関する情報を共有し、共通の認識を持つことが重要です。

府では、府環境を守り育てる条例に基づき毎年「京都府環境白書」を作成するとともに、府の広報誌「府民だより」、テレビ・ラジオ等の府広報番組や、インターネットなどの各種媒体により様々な環境情報の提供を行っています。8年の府ホームページ「おこしやす京都」の開設時から「京と地球の環境ホームページ」(<http://www.pref.kyoto.jp/intro/21cent/kankyo/>)を設置しています。

条例や地球温暖化などの地球環境問題の解説、子どもたちに学んでもらう実験やクイズのコーナー、京都の自然200選等の紹介を英文情報と併せて行うほか、15年度から、京都府**レッドデータブック***に掲載されている絶滅のおそれのある野生生物種や地形・地質、自然生態系の情報を紹介するなど、充実と最新情報の掲載に努めています。この結果、府のホームページの中でもアクセス件数が最も多いページ(15年度の府全体でのアクセス件数が月間約336万件、環境のページが約23万件)となっており、年々アクセス数も増加しています。

そのほか「府民だより」では、6月の環境月間、12月の地球温暖化防止月間に併せて環境問題の特集を掲載するとともに、14年度からは「エコ&はじめの地球だいすキッズ」コーナーを設け、子どもにもわかりやすい地球にやさしい暮らし方を紹介しています。このほか、京都エコクラブ会員を対象にしたメールマガジンの発行や、小学生向けの啓発冊子「環境まなぶつく」、11年度に作成した環境学習ガイド「環境まなびの輪」のCD-ROM化といった媒体の充実、環境月間・地球温暖化防止月間(12月)や環境フェスティバルなど時機をとらえたタイムリーな広報を展開しています。

また、環境施策や環境関連の各種事業を科学的、総合的に推進するためには、環境に係る情報を広く体系的に収集し、分析することが大切です。

府では、大気、水質及び産業廃棄物に関しては、それぞれ電算機を活用した「大気発生源情報管理システム」「水質汚濁総量管理システム」及び「産業廃棄物情報管理システム」の整備を図っており、各種の発生源や環境質に関するデータの管理及び総合的な解析を行っています。

その他、高浜原子力発電所に係る環境放射線等の監視情報を提供するため、舞鶴・綾部市内の府総合庁舎、保健所、市役所や府庁、府保健環境研究所等に屋内・屋外表示板を設置するとともにインターネットのホームページ(<http://www.aris.pref.kyoto.jp/>)を12年度から新たに設けました。